に輸出はたちまち衰え、その反動で猛烈な不景気が到来した。

そういった社会情勢の中、ロシア革命の影響をうけた社会主義思想が蔓延してきたから、不安になった政府は社会主義者弾圧に転じ、さらにはアカ狩りと称して思想までも取り締まりの対象とし社会不安は一層強まってきた。

そこへシベリア派兵の依頼がアメリカ大統領から届いたから、好機到来とばかり、シベリア派遣軍中最大の陸軍兵士を送り込んだ。

シベリア出兵：チェコ軍救出を提唱したのがウィルソン、アメリカ大統領、それに同調したのが日本政府で、日米同数の各 7000 名の兵士を派遣することを決め、1918 年 8 月 2 日、共同宣言を発表した。

8 月 12 日に日本軍、同 19 日にはアメリカ軍がウラジオストックに上陸、その後、イギリス軍、フランス軍、カナダ軍、イタリア軍が続いた。

実は日本軍は 1918 年 4 月には邦人保護の名目で陸戦隊を上陸させており、干渉戦争の準備を整えていた。

日露兵の衝突で傷ついた石田副領事
死傷の將卒百四十名
遭難せる石田副領事

さらに日米協定を無視、シベリア派遣軍を増強し遂には 7 万の兵士を送り込んだ、アメリカ政府はさかんい抗議したがこれを無視、さらにシベリア奥地のバイカル湖付近まで進出した。

1918 年 11 月 11 日、第一次世界大戦はドイツの降伏で終結し、チェコ軍団も救出されたので、他の派遣軍は目的を達して帰国したが、日本軍だけがシベリア大陸に留まりパルチザンとの戦いが継続された。

パルチザンとは、占領軍や外国の植民地になり圧政に苦しむ地域住民が支配軍に抵抗した非軍事組織の抵抗運動（レジスタンス）をパルチザンと総称する。

この時のパルチザンはボリシェービキ政権の軍事組織は赤衛軍（赤軍）であったが、赤軍とは別に地域の農民や労働者が武装した組織があり、各地で蜂起したため内乱が激化した。

赤軍と白軍（旧体制軍）、パルチザン、外国軍が入り乱れて戦っておりその中へ日本軍も突入にてしまい、引くに引けない状態になってしまった。

このような情勢の中で尼港事件にみられるような悲惨な事件がおきた。

1920 年 3 月から 5 月にかけて アムール川の河口の港町、ニコラエフスク（尼港）市をバルチザン部数 4300 名で編成された部隊（ロシア人 3000 名、朝鮮人 1000 名、中国人 300 名）が同市を襲い占領、略奪・処刑をほしいままにして老若男女数千名を虐殺、その前に駐留日本軍守備隊、日本領事、日本人居留民が殲滅されてしまっていた。（日本人の犠牲者総数は 731 名）